



文化財保護センターだより

財団法人 岐阜県文化財保護センター

<http://www.smile.pref.gifu.jp/maibun>

三田洞本部・整理所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
Tel.058-237-8550(代) Fax.058-237-8551
e-mail.maibun@smile.pref.gifu.jp

飛騨出張所

〒509-4122 岐阜県古城郡国府町名張字峠1425-1
Tel.0577-72-4784 Fax.0577-72-4690
e-mail.hida@smile.pref.gifu.jp

平成13年
3月1日

第30号

もくじ

表紙	10年のあゆみが今私たちに語りかける	行事	特別企画「いにしへの美濃と飛騨」…………… 4・5
調査	「いにしへの美濃と飛騨」開催 …………… 1	まとめ	平成12年度岐阜県内埋蔵文化財発掘調査状況 …… 6
	尾元遺跡・富田清友遺跡・金ヶ崎墳墓群	センターだより	センター日誌・あとがき・お知らせ …………… 7
	杉ヶ洞3・5号古墳、前山2号古墳 …………… 2・3	トピックス	続々発見！発掘調査現場から 筒状銅製品・煙道付炉穴 …… 8

設立10周年 特別企画

「いにしへの美濃と飛騨」開催

10年のあゆみが今私たちに語りかける



センターは、特別企画「いにしへの美濃と飛騨～(財)岐阜県文化財保護センター設立10年のあゆみ～」を、12月9日から1月14日まで岐阜県博物館において開催しました。

この企画は、設立10年目を記念してこれまでに発掘調査を行ってきた遺跡を、「古代の人々の交流と地域の独自性」という視点からまとめあげて展示したものです。

期間中は、多数の皆様にご来場をいただきました。「石器の材料に触れてみよう」「土器に触れてみよう」「文様をつけてみよう」のコーナーでは小さなお子さんも目を輝かせ挑戦していました。

発掘調査 状況

発掘調査追い込み盛ん!



当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県内8市町村11遺跡で発掘調査を実施してきました。このうち今回は、4遺跡の概要についてお知らせします。

尾元遺跡 (揖斐郡藤橋村)

この遺跡は、山裾のゆるやかな斜面からほぼ平坦になった段丘上にかけて広がっています。すぐ南には、揖斐川が流れています。



遺跡の様子

縄文時代の集落

ここに初めてヒトが訪れたのは、今から約8,500年前(縄文時代早期)のことです。押型文と呼ばれる文様が描かれた土器が、みつかったことからわかります。

約5,000年前(縄文時代前期後半)になると、ここでヒトが生活をするようになったことが、住居跡の発見によってわかります。近くにはお墓もあり、その一つからは、割れた瑛状耳飾り(耳たぶにあなをあげ、そこにはめ込んで飾りにしたもの)がみつかりました。遺体とともに埋められたものと考えられます。

再び、この場所で生活が営まれるようになるのは、約4,500年前(縄文時代中期後半)のことです。このころの住居には、石で周囲を囲った炉(石囲炉)が作られています。また、はっきりとした時期はわかりませんが、木の実を貯蔵したと考えられる穴もみつかっています。



出土した瑛状耳飾り



石囲炉

平安時代の水場遺構

長い空白の時期を経て、約1,000年前(平安時代)には、木の実を加工する場所として使われています。斜面裾の水がしみ出すところを利用して加工を行っていたようです。穴の中からは、たくさんの木の实(主にトチ)の殻がみつかりました。



水場遺構

富田清友遺跡 (美濃加茂市下米田町)

この遺跡は、飛騨川の河岸段丘上にあります。調査区は東地区と西地区に大きく分かれます。

東地区に広がる中世(鎌倉～室町時代)の遺構

中世のピット(小さなあな)が多くみつかりました。これらの多くは、掘立柱建物の柱穴として開けられたものと考えられます。柱の根元部分が残し、一直線上に並んでいるところもあります。

また、竪穴住居のように、地面を掘り込んで窪ませた、竪穴状遺構も4基ありました。これらの遺構からは、山茶碗や土師器皿などの細かな破片が多くみつかっています。

人々が、ここに何度も家を立て替えて、生活していた様子がわかってきました。



竪穴状遺構と多くのピット

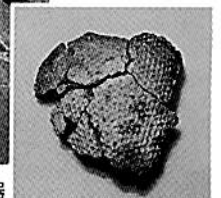
西地区に広がる縄文時代早期の遺構

県内でも最も古い時期(今から約8,000～9,000年前)の竪穴住居跡がみつかりました。浅い皿状の窪地を掘り、その周りから柱を立てて支えとし、覆いをかけて造っていたようです。ほかにも、煙道付炉穴や土坑(あな)などもありました。

そこからは、土器の表面に5mmほどの小さな凹みが続いた文様を持つ押型文土器や、木の実をすりつぶした磨石、弓矢に用いる石で作った鏃(石鏃)などがみつかりました。県内の縄文早期の人々の暮らしを考える上で、貴重な資料となりました。



西地区の遺構の様子



押型文土器

(注1) くわしくは、トピックス(P8)をお読みください。

この遺跡は、可児川と比衣川にはさまれた見晴らしの良い台地の上にあります。

「方形周溝墓」と呼ばれる、弥生時代の終わりから古墳時代の初め頃のお墓が、数多く集まっている場所であることがわかりました。

■ 四角いお墓がいっぱい！「方形周溝墓」

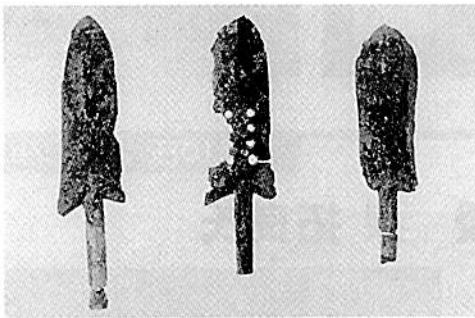
方形周溝墓とは、「四角い形(方形)をした周りに溝(周溝)がある墓」です。大きさは、1辺の長さが7～20mで様々です。高さは、周溝の底から測ると1.5m程あります。弥生時代のものは、後の時代の開墾や耕作などで、墳丘(墓の盛り上がり)が壊されていることが多いのですが、ここでは非常に良く残っていました。



方形周溝墓

■ お墓の中から棺？と副葬品が

方形周溝墓の頂上には、死者を葬った場所もみつかりました。長さ約2m、幅約70cmの長方形をした木の棺を埋めた跡がそれです。その中から、銅で作った鏃(銅鏃)3点と、石で作った小さな玉(勾玉1点・管玉5点)がみつかりました。銅鏃は矢の先につける武器、玉はペンダントです。いずれも、副葬品として死者とともに大切に納められたものと考えられます。



みつかった銅鏃

■ この遺跡からわかることは？

金ヶ崎墳墓群は、前方後円墳などの大きな古墳が築かれるようになる直前の墓の形・造り方、そして当時の有力者の力の大きさなどを知る上で、重要な資料になると思います。

これらの古墳は、柿田遺跡の南側、花フェスタ記念公園の北側に伸びる丘の谷部分にあります。

■ 古墳時代後期の円墳

いずれも、古墳時代後期の円墳であることがわかりました。内部には、遺体を安置する「横穴式石室」が造られていました。



杉ヶ洞3号古墳(左)と5号古墳(右)



姿を現した「横穴式石室」 前山2号古墳

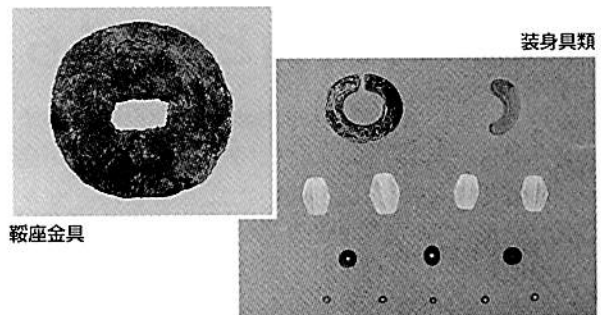
■ 石室内から豊富な副葬品が出土

杉ヶ洞3号古墳からは、馬具(鞍座金具)、体につけるアクセサリーの装身具類(金環、白玉、小玉)、武器類として刀子(小刀)、鉄で作った鏃(鉄鏃)がみつっています。副葬品の中に馬具が含まれることから、葬られた人の権力の大きさをうかがい知ることができます。

前山2号古墳からは、装身具類(銀環、勾玉、切子玉、白玉、小玉)がみつっています。玉類が多いのが注目されます。

■ 古墳の主人公は柿田遺跡と関連

これらの古墳に埋葬された人は、柿田遺跡で大規模な土木工事を行った有力者と考えられます。



鞍座金具

装身具類

杉ヶ洞3号墳から出土した遺物

いにしえの美濃と飛騨

～(財)岐阜県文化財保護センター設立10年のあゆみ～

平成12年12月9日(土)～平成13年1月14日(日)

場所：岐阜県博物館 人文展示室2



(財)岐阜県文化財保護センターは、今年度設立10年を迎えました。これまでに県内で100ヶ所を超える遺跡の発掘調査を行ってきました。その成果をご覧いただくため特別企画展を岐阜県博物館において開催しました。年末年始をはさむ寒い時期にもかかわらず、多数の方々にご来場いただき、盛況の内に閉幕しました。



パネル展示：10年のあゆみ

旧石器時代から近世まで 800点の展示遺物！

これまでの発掘調査で出土した遺物の点数は、破片で数えると200万点を優に超える膨大な数です。整理作業によって数多くの遺物を復元してきましたが、この展示会では選りすぐった遺物を約800点展示しました。会場を埋め尽くした遺物の数に驚きの声をあげる方も数多くおられました。



12月10日 ハイビジョンホール

第1回記念講演会 奈良大学教授 泉 拓良氏 「縄文時代の山と海の暮らし」

12月10日(日)に第1回記念講演会を開催しました。講師の泉先生には、縄文時代の暮らしや文化が発展していった様子についてご講演いただきました。センターが調査した遺跡や周辺地域の遺跡を取り上げ、コンピュータを駆使して写真や図などの資料を提示されました。視覚的にも分かりやすく参加者からも大変好評でした。



パソコンを利用して講演される泉先生

多くの入場者で盛大に開催される！

初公開の遺物にも注目集まる！

今回の特別企画展に合わせて初公開した遺物もありました。上しき 古城郡古川町 寿楽寺廃寺跡から出土した「墨書土器」や、関市の深橋前遺跡から出土した「筒状銅製品」、御嵩町の顔戸南遺跡から出土した「網代」です。「初公開」というプレートを見つけ、「あっ。これがそうなのか。」と熱心に見入る方が多かったです。



初公開の遺物に見入る人たち



展示室に南高野で発掘された石室復元!

皆さんの声、声、声

アンケートから

文化財保護センター開設10周年おめでとうございます。図書室で「きすな」を拝読していて、活動の様子に興味深くみています。今回は初公開の展示など、今までの速報展とはまた違う内容で興味深く拝見しました。(川辺町・男性)

県内にこの様な素晴らしい物があったことに、おどろき感動いたしました。大変な根気と努力と熱意がなければ、日の目を見ることがなかったものかと思えますと、関係者の皆様に敬意を表します。先人にこの様な素晴らしい物を残す知恵があったことは、県人として誇りを感じます。多くの人や子ども達に、見る機会を多く作っていただきたいと思えます。(各務原市・女性)

三重県からきたので、縄文土器の豊富さに驚きました。大変良かったです。(三重県・男性)



1月14日 ハイビジョンホール

第2回記念講演会 三重大学名誉教授 八賀 晋氏 「センター設立10年に寄せて」

1月14日(日)に第2回記念講演会を開催しました。講師の八賀先生には、センターの発掘調査によって、弥生時代から奈良時代にかけて新たに分かってきた美濃・飛騨の歴史を具体的な資料をもとに分かりやすくご講演いただきました。また10年を振り返り、今後センターが取り組むべき課題もご提案いただきました。



大勢の参加者を前に講演される八賀先生



平成12年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査

平成13年2月15日現在

遺跡名(所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物等
鷺山仙道遺跡 (岐阜市下土居)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	古墳時代～近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸・輪中提 土師器皿・犬形土製品・銅銭・鋳造関係品
鷺山市場遺跡 (岐阜市鷺山市場)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	古墳～戦国時代	竪穴住居跡・区画溝 土師器・須恵器・土師器皿
城之内遺跡 (岐阜市長良宮路町)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	戦国時代	堀跡・竪穴状遺構 山茶碗・土師器皿
加納城跡 (岐阜市加納丸ノ内他)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	近世	北門跡・大手門跡・二の丸御殿跡 近世瓦類・近世陶磁器類
鷺沼西町古墳 (各務原市鷺沼西町)	各務原市埋蔵文化財調査センター	古墳時代	方墳(二段築成・外護列石・横穴式石室) 須恵器
徳山更木陣屋跡 (各務原市那加西市場町)	各務原市埋蔵文化財調査センター	近世	溝・井戸・土蔵跡・便所跡 肥前
伊木山城跡 (各務原市伊木山)	各務原市埋蔵文化財調査センター	戦国時代	曲輪・石積み
美濃国分寺跡 (大垣市青野町)	大垣市教育委員会	奈良時代～中世	井戸・土坑・自然流路 須恵器・土師器・灰釉陶器・墨書土器
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会	奈良～平安時代	政庁北面の柵列・鍛冶遺構 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・緑釉陶器・瓦・土製馬・鉄製品
中山道 (関ヶ原町野上)	(財)岐阜県文化財保護センター	近世	街道跡・土坑 近世陶磁器
願成寺西墳之越古墳群 (池田町願成寺)	池田町教育委員会	古墳時代	横穴式石室 須恵器
尾元遺跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文・平安時代	竪穴住居跡・墓坑・貯蔵穴・水場遺構 縄文土器・灰釉陶器・石器・木製品
徳山陣屋跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世・近世	掘立柱建物跡・土坑・石垣・溝 灰釉陶器・山茶碗・中近世陶磁器・土製品・金属製品
大杉遺跡 (関市大杉他)	関市教育委員会	弥生～古墳時代	竪穴住居跡・区画溝・土坑 弥生土器・須恵器・白玉・有孔円盤
末洞遺跡 (関市下有知)	関市教育委員会	古墳時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡 土師器・須恵器
段遺跡C地区 (美濃市段)	美濃市教育委員会	中世	土坑・溝跡 山茶碗
神興休遺跡 (美濃市須原)	美濃市教育委員会	縄文時代・中世	土器棺墓・土坑 縄文土器・山茶碗
山ノ神遺跡 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	古墳時代・ 中世・近世	掘立柱建物跡・土坑 山茶碗・陶磁器
尾崎遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会	弥生～古墳時代	竪穴住居跡 須恵器・土師器
富田清友遺跡 (美濃加茂市下米田町)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文・古墳時代 中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・煙道付炉穴・土坑 縄文土器・石器・土師器・須恵器・中世陶器
野笹遺跡 (美濃加茂市野笹町)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生時代～近世	竪穴住居跡・竪穴状遺構・溝・土坑 弥生土器・土師器・須恵器・山茶碗・中近世陶器・石器
羽崎寺洞1・2号古墳 (可児市羽生ヶ丘)	可児市教育委員会	古墳時代	円墳(横穴式石室) 須恵器・鉄製品
柿田遺跡 (可児市柿田・御嵩町三字子)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生時代～中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸・灌漑施設・水田 弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器・木製品
杉ヶ洞3・5号古墳 前山2号古墳 (可児市柿田)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	円墳(横穴式石室) 須恵器・土師器・馬具・玉類・金属製品
金ヶ崎墳墓群 (御嵩町比衣)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生時代～近世	方形周溝墓・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・中世墓・近世墓 弥生土器・土師器・須恵器・銅銭・玉類
青木横穴墓 (御嵩町比衣)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	横穴墓 須恵器・鉄製品
市之倉洞窯跡 (多治見市市之倉)	(財)多治見市文化振興事業団	江戸～明治時代	近世陶磁器
喜多町東遺跡 (多治見市宝町)	(財)多治見市文化振興事業団	弥生～古墳時代	竪穴住居跡 弥生土器
武並神社遺跡 (恵那市大井町)	恵那市教育委員会	奈良時代～近世	基壇・土塁・石垣 須恵器・山茶碗・古瀬戸・鉄製品
下石西山古窯跡 (土岐市下石町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	鎌倉～室町時代	古瀬戸系窯・作業場遺構・山茶碗窯 古瀬戸系施釉陶器(天目茶碗・灰釉平碗・瓶子など)・山茶碗
妻木城跡 (土岐市妻木町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	室町～江戸時代	礎石建物跡 陶器・土師器
元屋敷陶器窯跡 (土岐市泉町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	安土桃山～ 江戸時代	物原 陶器
上ヶ平遺跡 (下呂町森)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文・古墳～ 平安時代	竪穴住居跡・焼礫集石遺構・下呂石貯蔵穴・掘立柱建物跡 縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・石器・下呂石石核・鉄鏃
太江遺跡・寿楽寺鹿寺跡 (古川町太江)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代～近世	基壇・溝・土坑 須恵器・土師器・三彩陶器・鉄製品
大洞1・2号古窯跡 (国府町瓜栗)	国府町教育委員会	平安時代	灰釉及び山茶碗窯 灰釉陶器・山茶碗
江馬氏城館跡下館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会	室町～戦国時代	庭園 土師器皿・中世陶磁器・金属製品

文化財保護法第57条・第58条の2・第80条の手続きによる



あしがき

今年度の夏は例年にも増して暑かった覚えがありますが、冬はまた寒さが一層厳しい一年となりました。室内の整理作業もありますが、野外での発掘業務を行っているセンターとしては、ややつらい年になったようです。しかし関係者の熱のこもった対応のおかげで、暑さ寒さをものともせず本年度の業務が順調に進行してきたことを、心より喜んでいます。

さて、本年度センターは設立10年目にあたっております。その記念として、12月9日から1月14日にかけて特別企画「いにしへの美濃と飛騨」展を岐阜県博物館において開催しました。これまでに発掘した代表的な遺跡から、約800点の遺物展示と2回の講演会を行いました。毎年行っている発掘速報展に比べて、最多の入館者数を記録するなど、十分な成果をあげることができました。これからも、発掘された遺物については機会あるごとに公開して、大切に後世に伝えていく必要があると考えています。

夏のころには各地で多くの発掘現場が見られましたが、秋から冬になるとそれぞれの成果をおさめながら終了していききました。年が明けてからは2ヶ所の現場と整理作業のみになりましたが、この2ヶ所の現場での現地説明会は先月に行われたばかりです。

昼の長さが長くなり、日一日と春めいてまいりました。来年度の作業開始へ向けた準備も始まりです。

お知らせ

岐阜県発掘調査報告会

【日時】 平成13年7月14日(土)

【場所】 土岐市

タイムスリップ探検隊

美濃地区

【日時】 平成13年8月2・3日(一泊二日)の予定

【場所】 未定

飛騨地区

【日時】 平成13年8月8日の予定

【場所】 未定

発掘速報展

【日時】 平成13年11月17日(土)～

12月16日(日)

【場所】 岐阜県博物館

詳細は次号でお知らせします。

- | | |
|-----|--|
| 10月 | 2 三重大学名誉教授八賀晋氏、調査部研修会にて講演 |
| 11 | 石川県鳥屋町文化財保護審議会、金ヶ崎墳墓群見学
岐阜市東長良中学校、三田洞整理所にて体験学習 |
| 19 | 岐阜地区高等学校地歴・公民科主任者会議、本部にて開催
各務原市中央中学校、柿田遺跡にて発掘体験学習(～20日)
記者発表(上ヶ平遺跡) |
| 20 | 可茂・東濃地区文化財保護巡視員会議、金ヶ崎墳墓群にて現地研修 |
| 23 | 報道関係者説明会(上ヶ平遺跡) |
| 27 | 記者発表(杉ヶ洞古墳)
安城市歴史博物館斎藤氏来所
愛知県シルバーサービス振興会、柿田遺跡見学 |
| 28 | 現地説明会(上ヶ平遺跡 350名) |
| 29 | 現地説明会(杉ヶ洞古墳 150名) |
| 30 | 記者発表(太江遺跡・寿楽寺廃寺跡)
辰馬考古資料館矢野健一氏、富田清友遺跡指導
岐阜大学助教授早川万年氏来所 |
| 31 | 記者発表(富田清友遺跡)
各務原市成人講座へ講師派遣 |
| 11月 | 4 現地説明会(富田清友遺跡 260名) |
| 6 | 三重大学名誉教授八賀氏、柿田遺跡他指導 |
| 8 | 南山大学教授伊藤秋男氏、柿田遺跡指導 |
| 9 | 埋蔵文化財発掘調査基礎講座(～10日) |
| 10 | 愛知教育大名誉教授水野時二氏、柿田遺跡指導 |
| 20 | 藤田坂遺跡試掘確認調査(～22日)
記者発表(特別企画「いにしへの美濃と飛騨」) |
| 25 | 「古墳時代の土器を見る会」(代表：加納俊介氏)
センターにて遺物見学 |
| 26 | 飛騨市町村担当者学習会(上ヶ平遺跡) |
| 29 | 揖斐郡公民館連絡協議会・社会教育委員、徳山陣屋跡見学
奈良大学教授泉拓良氏、尾元遺跡指導 |
| 12月 | 2 古川町山樵館にて寿楽寺廃寺跡出土遺物公開(～3日) |
| 4 | 重竹遺跡試掘確認調査開始 |
| 5 | 各務原市成人講座へ講師派遣 |
| 9 | 特別企画「いにしへの美濃と飛騨」開幕(～1月14日岐阜県博物館) |
| 10 | 特別企画記念講演会(奈良大学教授泉拓良氏 岐阜県博物館) |
| 12 | 米原町教育委員会中井均氏、徳山陣屋跡指導 |
| 13 | 揖斐郡藤橋小・中学校児童・生徒、尾元遺跡見学 |
| 15 | 御嵩町議会自動車道対策特別委員会、金ヶ崎墳墓群視察 |
| 20 | 京都大学大学院教授上原真人氏、柿田遺跡指導 |
| 25 | 愛知県埋蔵文化財センター樋上氏来所 |
| 1月 | 5 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター山本氏他来所
愛知県埋蔵文化財センター鈴木氏来所 |
| 10 | 国際日本文化研究センター教授宇野隆夫氏、柿田遺跡指導
岐阜女子大学学生現場体験学習(～12日 柿田遺跡) |
| 14 | 特別企画記念講演会(三重大学名誉教授 八賀晋氏 岐阜県博物館)
特別企画「いにしへの美濃と飛騨」閉幕
(岐阜県博物館 入場者 3,697名) |
| 16 | 奈良女子大学大学院教授広瀬和雄氏、柿田遺跡指導 |
| 18 | 南山大学教授伊藤氏、柿田遺跡指導 |
| 19 | 三重大学名誉教授八賀氏、金ヶ崎墳墓群指導 |
| 24 | 滋賀大学教授小笠原好彦氏、金ヶ崎墳墓群指導 |
| 26 | 岐阜女子大学文化情報研究センター後藤忠彦氏来所
安城市歴史博物館斎藤氏来所 |
| 29 | 上恵土城跡周辺地区試掘確認調査(～30日) |
| 30 | 防災訓練 |
| 31 | 財団法人ソフトピアジャパン副理事長安藤隆年氏他来所 |
| 2月 | 6 記者発表(柿田遺跡) |
| 10 | 現地説明会(柿田遺跡 560名) |
| 14 | 記者発表(金ヶ崎墳墓群) |
| 17 | 可児郷土歴史館発掘調査報告会に発表者派遣 |
| 18 | 現地説明会(金ヶ崎墳墓群 420名) |

続々発見！発掘調査現場から



全国で2例目 筒状銅製品 深橋前遺跡 (関市下有知)

この「筒状銅製品」は、小高い丘の頂上部の平坦地に造られた、竪穴住居跡からみつかりました。同じ住居跡から出土した土器の年代から弥生時代末から古墳時代初頭のものと考えられます。長さ10.3cm・直径2.1cmの筒形をした青銅製品です。復元図にみられるように、4本の二等辺三角形の細長い透かし穴が等間隔に入れられ、上部は細く浮き上がった2本の平行線で装飾されています。

●使い道は何だろう

この青銅製品が、どのように使われていたかははっきりしませんが、我が国の前期古墳や、朝鮮半島の古墳から副葬品として出土している「筒状銅器」のように、槍や旗竿の穂の地面側に差し込む「石突」として用いられていたと考えられます。

●北九州との関係が

これによく似た青銅製品は、福岡県の夜臼・三代遺跡群で出土しており、深橋前遺跡で出土したものは、北九州の影響を受けていると考えられます。

この遺跡の竪穴住居跡から、「筒状銅製品」が発見されたことによって、これを持つ者の勢力の強さをうかがうことができます。



縄文時代早期の台所？「煙道付炉穴」 富田清友遺跡 (美濃加茂市下米田町)

縄文時代早期に特徴的な、煙道付炉穴が6基みつかりました。これらは、焼き口部分(炉)と煙を出す煙突部分(煙道)の二つの穴をつなげた構造となっています。



作業の様子

●県内で始めて完全な形で炉穴が

6基のうち4基が重複し、残り2基は1基ずつ独立して造られていました。下の写真は、単独で造られていた煙道付炉穴です。残り5基は煙道部が崩れていましたが、この1基は幸運にも煙道部の上の土が崩れ落ちずに残っていました。焼き口や奥には、平たい川原石を水平に据え使用していました。熱を受けた影響で、焼き口付近の土は赤味をおび、硬くなっていました。川原石の表面は一部割れていました。

この遺構からは多くの炭化物の小さな破片や、押型文の縄文土器、石鏃などが出土しました。

●何に使っていたの？

この遺構は①煙出し部分に土器を置き、煮炊きに使っていた。②薫製を作る施設として使っていた。③火を使った食物調理の場であった。④蒸し焼きに使うための石を加熱する施設であった。など様々な使われ方が考えられています。

特に、①と②が現在有力です。



煙道付炉穴



内部の様子